



10月11日、25名の部員が目指したのは、当中のサウンドを新潟のホールに響かせること。北海道を離れ、初めての大舞台でも気負うことなく最高の演奏ができた満足感。そのすべてが金賞という素晴らしい成績に結びつきました。審査員からも「一人ひとりのレベルが高く、それぞれの役割をしっかりと果たした表現力の豊かな演奏」と高く評価されました。

春に楽器を吹けない1年生8人を迎え、指導しながら全道、東日本大会を目指した日々の練習。そればかりではなく、依頼があれば各イベントでの演奏、学校行事や生徒会活動など大会本番まで忙しい日々が続きました。

「今回の曲は、音楽的な表現が難しくみんな悩みました。でも、東日本大会に行くことを目標にがんばって、決まっ

当別中学校吹奏楽部

東日本学校吹奏楽大会で金賞受賞

曲目は『バレエ音楽「恋は魔術師」より』

た時には夢が実現して本当にうれしかった」と話す3年生でサクソ担当の五十嵐ちかさん。今回最後の出場チャンスの3年生は絶対実現したいという思いが強かったでしょう。

2年生でクラリネット担当の佐藤彩香さんは「去年は全道大会に行くことができなくて残念な思いをした。3年生と一緒に東日本大会に行けたことが一番うれしかった」と話します。

顧問の水野教諭は「曲選びが一番の悩みどころ。今回25名のC編成でも、35名のB編成に負けない演奏で金賞を受賞できたことが本当にうれしかった。1年生のがんばり、成長ぶりに驚かされます。昔から、先輩から後輩にと受け継いできたものが成果につながっている」と生徒達の頑張りをおほらいます。

1年生でピアノを担当した棚村遼太郎君は「これから3年生が抜けて人数が減るけど、その分頑張っていきたい」と力強く語ってくれました。当中吹奏楽部は、新たな目標に向かって練習を続けています。

ひたむきな努力 夢を実現!

当別町商工会女性部長 石本留美子さん 全国主張発表大会で最優秀賞受賞

結果発表のその瞬間、観客席の応援団から沸き起こった歓喜と拍手が会場を埋め尽くし石本さんは、受賞の喜び以上の感動を噛み締めました。

3月に札幌市での全道大会、9月に北海道・東北6県ブロック大会と勝ち抜き、10月7日、全国6ブロックの代表が発表しあう鹿児島市での全国大会に挑んだ石本さんは、北海道勢として初めての出場。会場には、大型スクリーンが設置され北海道からの応援団100名を含む4,000人も聴衆で埋め尽くされました。

普段から「元気」と「明るさ」がモットーの石本さんはタイトルを「たかがいもだんご汁、されどいもだんご汁」として、当別町の特徴からいもだんご汁を商品化、PRや消費拡大に奮闘した経過を発表、「ステージに立ってどっしり構え、緊張もしなかった。身振り手振り、笑いを交えて発表できた」と振り返る。

いもだんご汁は、町商工会女性部が試行錯誤しながら開発し、平成14年秋に町内での販売を始めるとともに、町内外のPR活動を続けてきました。スピード料理でおふるの味の「いもだんご汁」は地域に根付き、町外からの問い合わせも多くなっています。



「自分達の手と力で作り上げたいもだんご汁を愛し誇りにさえ思える。町の元気は私達の元気から。そんな思いで今がんばっている!」と力強く会場に訴えました。

「ステージで結果が発表された瞬間、応援団が総立ちになり喜んでくれたことが何よりうれしく一つの感動を共有できたことがうれしかった」と笑みを浮かべます。

「町を明るくするために私達女性部の元気な姿をみんなに見せて、こんな素晴らしい賞ももらうことができた。がんばれば何とかなることを証明できた。いろんな団体ががんばってくれる原動力になるとうれしい」と語る石本さんは、これからも町に元気を与えてくれる存在となることでしょう。